

第 10 回留学報告書

ジョブマーケットがひと段落し、雪の降るニューヨークでこのレポートを執筆しています。この半年間は今までになく多忙な日々でした。ジョブマーケットに出る直前の夏には、ワシントン DC にあるアメリカの中央銀行である Federal Reserve Board of Governors で、去年の 6 月から 8 月の 3 ヶ月間、Dissertation Fellow として博士論文、特にジョブマーケットペーパーとして知られる論文の執筆と研究報告を行っていました。9 月にはジョブマーケットに向けた、学内の同じ分野の教員全員に向けての研究報告、10 月に論文の仕上げと 200 以上のポジションへの応募、11 月には 1st round インタビューを学内の教員や同級生と練習、12 月にインタビュー、そして今年の 1 月に 2nd round のフライアウトという時の流れでした。

アカデミックなジョブマーケットも私の学部時代の友人たちが行っていた就活と本質的には重なる部分が大きいのと思います。それは今後、職業人としてどのように過ごすか、その像に最もマッチする就職先を探すということです。そして、雇用主も職場にマッチするような人材を探しています。ただし、そのマッチの重要な要素が研究内容に重点が置かれているのがアカデミックジョブマーケットだということです。Flyout 先の大学の多くの研究者が個別面談や研究報告で熱意を持って真剣にこれまでの私の研究を討論してくれたこと、そして数ある他の応募者の中から私のこれまでの研究やこれからの研究計画を面白いと思ってくれ、オファーを出してくれたことを伝えられた喜びはこの先も忘れることはないでしょう。ジョブマーケットは心身ともに大変な時期ですが、自分のこれまでとこれからの研究に向き合う上で価値のある期間で、それを受け入れてくれる就職先を探す貴重な機会でした。

アカデミックジョブのオファーを受け、PhD 中のメジャーなイベントを無事に乗り越えることができました。最後になりますが、ジョブマーケット中も金銭的な不安を抱えることなく、研究に集中することができたのは御財団のご支援のおかげです。改めて感謝申し上げます。次回の報告では PhD の生活の総まとめと今後について報告を差し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。